

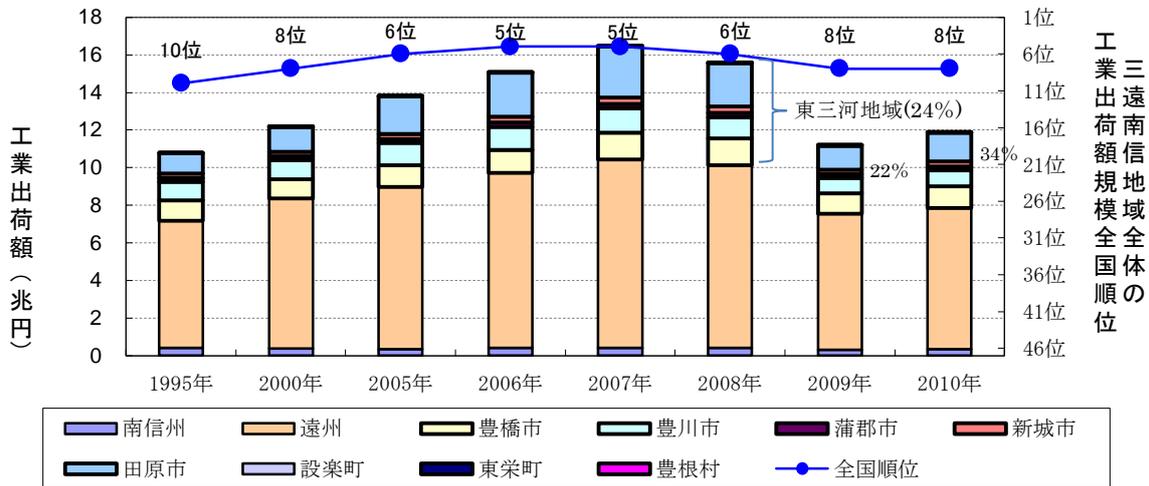
東三河地域の工業

東三河地域の工業特性

製造業は、東三河地域経済を牽引している重要な産業である。東三河地域の2010年における工業出荷額は約4兆円であり、リーマンショック以前の工業出荷額約5.4兆円より約1.4兆円減少している。市町村別にみると、田原市（約1.5兆円）が最も多く、次いで豊橋市（約1.1兆円）、豊川市（約0.8兆円）となっている。三遠南信地域全体の工業出荷額は約11.8兆円（対全国シェア4.1%）であり、全国8位の茨城県を上回っている。また三遠南信地域における東三河地域のシェアは34%（2010年）であり、前年よりも10ポイント以上上昇している。

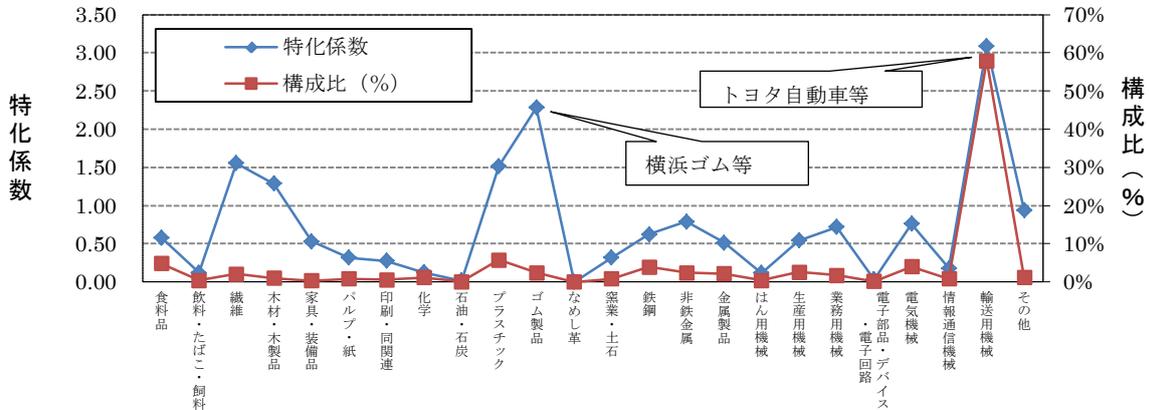
東三河地域の中分類別工業出荷額の特化係数*1をみると、輸送用機械器具（3.0）が最も高く、次いでゴム製品（2.2）となっており、自動車産業と関連が強い業種に特化している。

三遠南信地域の工業出荷額の推移



出典：工業統計表（経済産業省）を利用して作成
 遠州：浜松市、磐田市、掛川市、袋井市、湖西市、御前崎市、菊川市、牧之原市、森町
 南信州：飯田市、松川町、高森町、阿南町、阿智村、平谷村、根羽村、下條村、売木村、天龍村、泰阜村、喬木村、豊丘村、大鹿村

東三河地域の中分類別工業出荷額の特化係数等



*1: 特化係数 = (東三河地域のの中分類別構成比 / 全国の中分類別構成比) 特化係数とは地域の産業構造がどの業種に偏っているかを示す指標である。
 資料：工業統計表（経済産業省）を利用して作成

三河港臨海部の経済活動規模

戦前は養蚕を起源とした繊維工業、豊川上流の森林を利用した製材業が発達したとともに、ゼリーから食品製造業が展開した。昭和30年代、国の政策による「東三河工業整備特別地域」の指定を受け、三河港臨海部の埋立てが進み、造船（新来島豊橋造船）、鉄鋼（トピー工業）等の重工業の立地が進んだ。昭和50年代に入ると、トヨタ自動車の最終組立工場が田原市（当時の田原町）に立地したこと等により、デンソー、アイシンAWなど加工組立型企業が進出した。

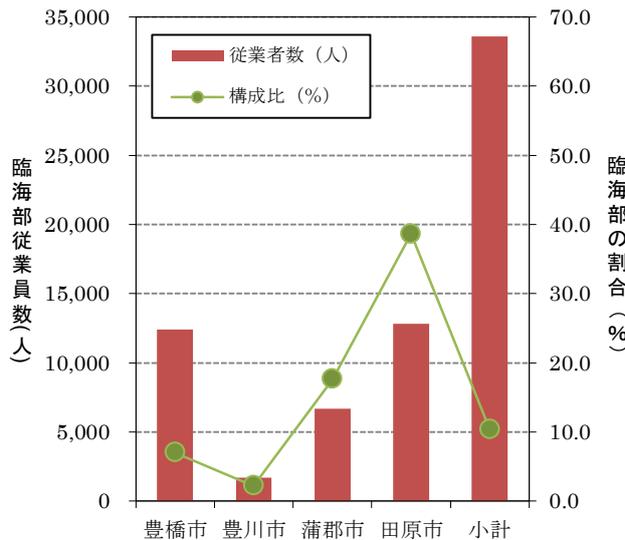
平成に入ると、東京・大阪の一大消費地の真ん中に位置し、安価な用地と港が利用できることから、外資系自動車の輸入基地の立地が進んだ。現在、フォルクスワーゲン、アウディ、ポルシェ、フォード、ボルボ、フィアット等のブランド車が三河港から輸入されており、全国の約45%（全国1位）を占めている。2013年からプジョー・シトロエンも輸入される予定であり、この結果、国内の輸入車の5割以上が三河港で陸揚げされることが見込まれている。

三河港臨海部*2の従業者数は約34千人（2009年）であり、臨海部市（豊橋市、田原市、豊川市、蒲郡市）の従業者数全体の約10%を占めている。また、製造業の従業者数は約24千人で臨海部市における従業者数の約28%を占めており、特に田原市は約88%と突出して高くなる等、工業集積の拠点的形成している。

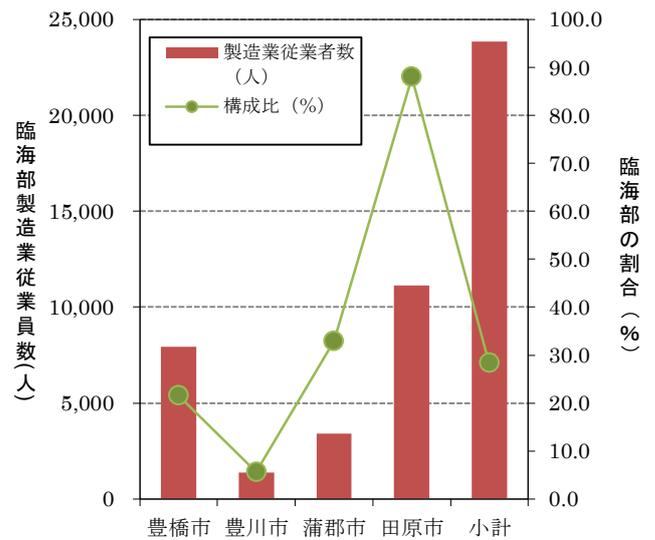
三河湾臨海部の立地企業



三河港臨海部における従業者数の状況



三河港臨海部における従業者数の状況（製造業）



*2: 三河港臨海部は豊橋市（明海町、神野ふ頭町、神野西町、西浜町）、豊川市（御津町佐脇浜、御津町御幸浜）、蒲郡市（浜町、拾石町、海陽町）、田原市（白浜、緑が浜）とした。

資料：経済センサス（平成21年）を利用して作成